報告２

市立大町山岳博物館と連携・協力に関する協定を締結しました

長野県環境保全研究所と市立大町山岳博物館は、長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むため、連携・協力に関する協定を締結しました。

調印式は、平成 26 年 3 月 26 日に市立大町山岳博物館講堂で行われました。当日は、協定書を交わし、当研究所の倉沢幸一所長より、「自然環境保全のために大変意義深い協定」、市立大町山岳博物館の宮野典夫館長より、「今後、連携して研究を進め、研究成果を地域に還元し、発信していきたい」とあいさつがありました。

この協定を記念して、森林総合研究所と当研究所の共同研究成果をまとめた「ライチョウに危機せまる？」のパネルを 4 月～ 6 月に市立大町山岳博物館で展示していただきました。また、5 月 11 日には、長野市の茶臼山動物園でライチョウの観察会が両機関と両機関の友の会共催で行われました。

今後は、お互いの特徴を生かし、北アルプスでの高山植物やライチョウの生態調査、雪渓（氷河）調査など幅広い分野での共同研究の推進や、研究者の相互交流・人材育成の相互支援・研究成果の情報発信の共同実施などに取り組みます。この連携・協力に関する協定を契機に、当研究所は市立大町山岳博物館とともに、さらなる学術の振興・自然環境保全や地域の発展に努めてまいります。

（次長　中村　勤）

報告３

長野県版レッドリスト植物編が刊行になりました

長野県は、絶滅のおそれのある野生生物の現状をまとめた「長野県版レッドデータブック」を作成してきました。平成 13 年度に維管束植物編が刊行され、15 年度に脊椎動物編・無脊椎動物編が、16 年度に非維管束植物編・植物群落編が刊行されました。刊行から 10 余年がたち環境の変化や新たな分布地の発見・消失などがあり、今回改訂作業を進め、平成 25 年度に「植物編」として改訂されました。植物編は、維管束植物の他、非維管束植物と植物群落を含みます。26 年度には引き続き「動物編」が刊行されます。

レッドリスト掲載種（維管束植物）は、絶滅 18 種、野生絶滅 1 種、絶滅危惧種 804 種、情報不足 59 種、地域個体群 1、留意種に 12 種が選定され、合計 895 種・個体群となりました。絶滅とされた植物で 7 種が再発見されたことから、今回の改訂では、ジロボウエンゴサクやスギナモなどそれぞれ絶滅危惧Ⅰ類とされました。絶滅の危険度が高まっている種として、カザグルマやアズマギクなどがあり、また、新規に追加された種として、イトハコベ、スナジスゲ、エゾサカネランなどがあげられました。植物群落として、新規に選定されたものとして、飯山市のナベクラザゼンソウ群落、木曽町のススキ群落、富士見町のミズゴケ群落・スズラン－ススキ群落などがあります。

（大塚孝一）